

# 福祉・介護分野における中核的 人材養成に向けた高・専一貫 教育プログラム開発・実証事業

令和4年11月21日

 北海道栗山町・北海道介護福祉学校

# 福祉のまち「くりやま」

超高齢社会を先読みし、ビジョンを描く～

★生涯を自分らしく暮らすまち「福祉のまち」

## ▶ 昭和63年からの先駆的な福祉政策

- 町立介護福祉学校の設立（介護福祉士養成校）
- リフォームヘルパー制度（産業連携）  
バリアフリー住宅助成・公営住宅整備
- 町民の心を育てる取り組み（福祉現場を公開）
  - ・福祉情報誌「くりやまプレス」
  - ・町民の福祉体験、ボランティア など

## ▶ 町民が福祉の担い手に

- 町民起業など民間による福祉サービス充実
- 町民NPOによる障がい者自立支援

合言葉は「まちという名の家族」  
「栗山ならだいじょうぶ」



# 福祉のまち「くりやま」

超高齢社会を先読みし、ビジョンを描く

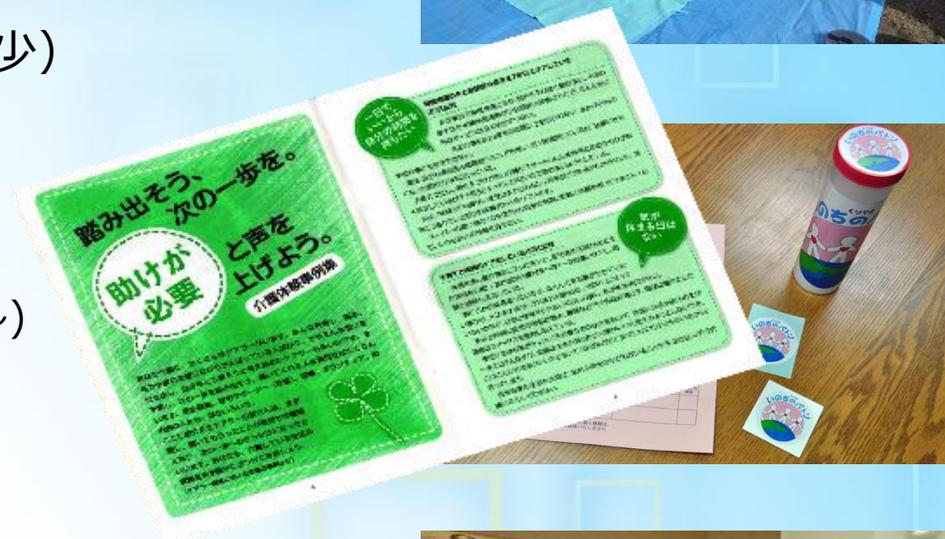
★生涯を自分らしく暮らすまち「福祉のまち」

## ▶ さらなる高齢化の進展

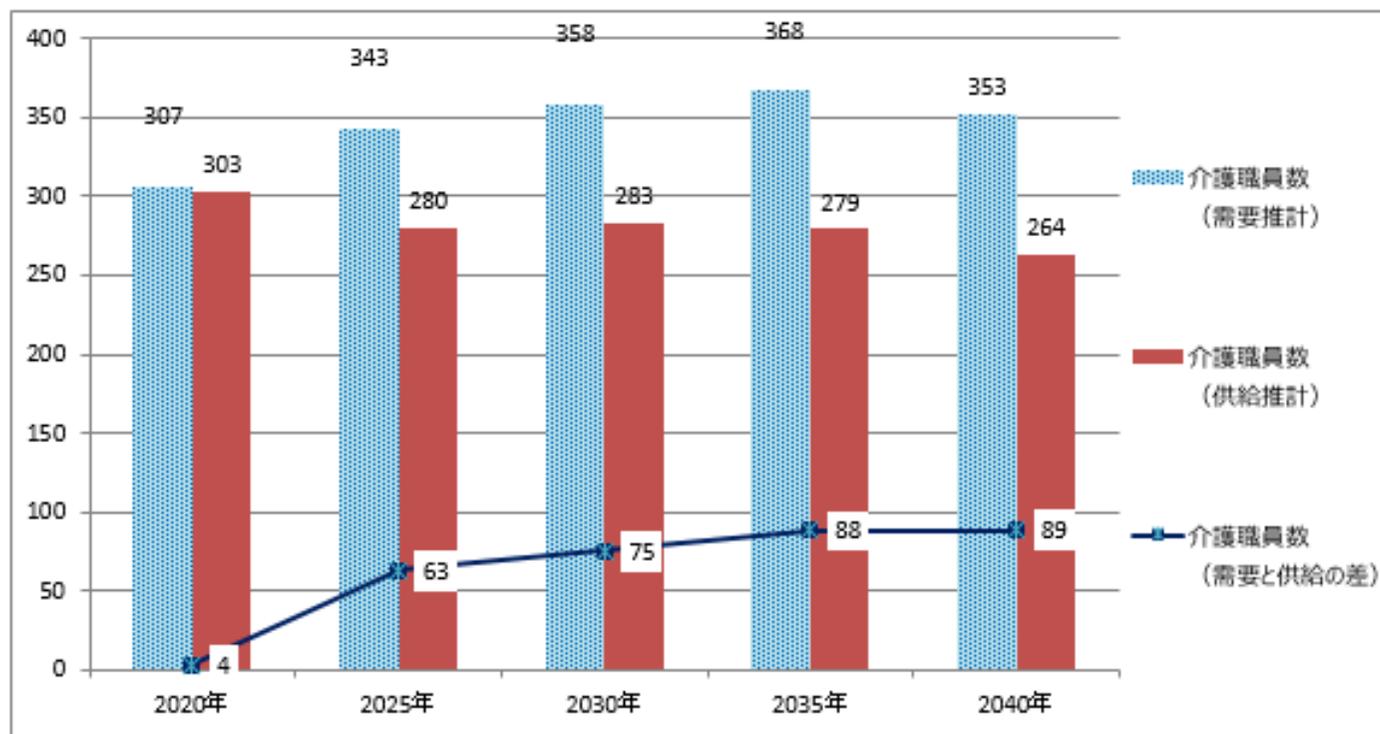
(高齢者世帯の増加と支える世代の減少)

## ▶ 地域での暮らしを支える

- 新たなコミュニティ形成を支援  
「まちづくり協議会」設置（平成20年～）  
(自主防災活動、地域福祉活動など)
- 元気・在宅高齢者の支援
  - ・ 命のバトン事業（平成22年～）
  - ・ 高齢者向け「宅配」電話帳（平成23年～）
  - ・ 在宅サポーター（平成23年～）
  - ・ ケアラー手帳（平成23年～）
  - ・ まちなかケアラーズカフェ（平成24年～）
  - ・ 見守り介護ロボット（平成26年～）



栗山町における介護人材需給推計によると高齢化率が40%を超える中であって、介護人材不足は極めて深刻な地域課題となっており、介護人材の需給推計による試算では、2025年度には63人、2040年度には89人が不足するという結果が出ている。



町では令和2年に介護保険事業所等を対象に介護人材実態調査を実施。その結果を見ると、

「人手不足の影響を受けている」と回答した事業所等の割合が75%

資格者別では、

- 介護福祉士が84.2%、
- 実務者研修・基礎研修・ヘルパー1級修了が61.2%
- 初任者研修・ヘルパー2級修了が73.7%

どの階層においても人材不足が顕著な状況

★人材を募集しても応募がない、現場の中心を担う人材を高齢な職員に依存しなければならない状況にあるなど人材確保に苦慮している状況にあり、喫緊の課題として切実な状況にある。

# これまでの主な取組 1

★多様な人材が協働して介護福祉を実践する社会において、**リーダーとなる人材**、さらに高度なスキルを持って介護現場での**中心的な役割を担う介護福祉士の養成**が極めて重要

●本町では、**行政、介護福祉学校、産業界（町内介護事業所等）が連携**し、介護人材確保に向けた対策を協議する場として、「**介護人材確保連絡会議**」により課題解決に向けた議論を展開

●北海道介護福祉学校は教育機能を活かし、

- ・地域をフィールドとしたゼミ活動「**地域活動研究**」
- ・将来を見据えた「**キャリア形成支援講座**」

といった講座など、独自の取組を展開

## これまでの主な取組 2

★介護人材確保に向けては、より早い時期からキャリア意識、専門知識を涵養できるようなアプローチが必要であり、町教育委員会では令和4年度から福祉教育を「ふるさと教育」の一翼を担う教育活動と位置付け推進

●本町唯一の公立高校である栗山高校では、これまでも地域と一体となって「コミュニティ・スクール」をいち早く導入

福祉に関する授業の設置による高専連携を推進するとともに、平成26年度には本校との間に連携協定を締結し、専門学校の人材や設備を活用した栗山高校生徒の職業体験などを通して地域の福祉教育の推進をより強化

## これまでの主な取組 3

●福祉教育による教育活動では、**小中高等学校の12年間を「一つの学び」**として捉え、栗山に住むすべての子どもたちが地域の人々との触れ合いや体験活動を通して、互いを思いやり、助け合い、励まし合いながら、この栗山を誇りに感じ、自らがこのまちの担い手としての自覚を持つための教育を推進

その特徴的な取組として、**北海道介護福祉学校の専任教員が町内小中高の児童生徒に対して行う「福祉」の学習指導や介護福祉学校の在校生が**中心となり児童生徒と共に学ぶ「介護体験教室」等を積極的に展開

行政、小・中・高・専学校、産業界がそれぞれの役割分担の中で、栗山町が目指す「福祉のまちづくり」の実現に寄与

# 目的

- 高・専両校の連携を軸に、**本町まちづくりの主要拠点「北海道介護福祉学校」**が核となり、地域における将来の介護人材の発掘育成を図り、介護人材が定着する環境づくりに貢献することで学校の存在価値を発揮、地域ニーズに呼応する学校へ深化
- 本事業で開発する地域での介護人材養成に向けたキャリア形成プログラムの実践により、本町における介護人材不足の解決はもとより、福祉教育を通して身に付けることができる豊かな人間性を育む人材養成が実現

その実効性を高めるため、**産学官連携による教育プログラム**をベースにした事業展開を図ることが極めて有益であり**行政・専門学校・高校、そして産業界が緊密に連携した高専接続カリキュラム開発と検証・改善**

本町の福祉・介護の充実に取り組んでまいりたい。

# 事業概要 1

福祉・介護分野における中核的人材養成に向けた  
高専一貫教育プログラム開発・実証事業

事業期間 令和4年度から令和8年度までの5年間

事業費 4,459千円 ※令和4年度事業分

開発する高・  
専一貫教育  
プログラムの  
内 容

## 【高等学校段階】

- ・ 栗山高等学校で学ぶ3年間で生徒全員が総合科目「（仮称）栗山と福祉」を履修
- ・ 栗山町の高齢化の実態と課題解決方法に関する学習を実施
- ・ 探究学習や進路指導を支援するプログラムの活用
- ・ 介護学生、福祉・介護専門職とともに演習できる機会の創出
- ・ 介護職員初任者研修の資格取得修了や進学による国家資格取得への動機づけ、介護学生との合同授業



## 【専門学校段階】

- ・ 介護福祉士を取得し施設・地域で活動できる能力（医療的ケアを含む。）の育成
- ・ 介護福祉としての基準科目と独自科目の地域活動研究の実施や、キャリア形成支援講座の開設により、地域を俯瞰し地域づくりに関与する能力の育成
- ・ 次世代の人材づくりのためのプレゼンテーション能力の養成

# 事業概要 2

## 概要

本校の存在意義を発揮し、介護分野における中核を担う介護福祉人材を養成するため、新たな教育モデルの開発を目指し、現在、連携協定を締結している栗山高校との連携をより強化・発展させるとともに、行政と産業界が協働し、**高・専一貫の教育プログラムの開発**に必要な体制として、**連携組織「魅力化コンソーシアム」**を構築し、発展的な事業展開を図るもの

### 高等学校段階【栗山高校】

高校 1 年生	高校 2 年生	高校 3 年生
---------	---------	---------

**必修科目「栗山と福祉」**  
**※ 3 年次選択科目：フードデザイン**

### 専門学校段階【介護福祉学校】

専門学校 1 年生	専門学校 2 年生
-----------	-----------

**介護福祉学科**

## 効果

### 栗山高校

本町の教育資源を活用し、地域と連携した教育活動を推進することにより、高校の魅力化と活性化を実現

### 北海道介護福祉学校

地域包括ケアシステムの推進や自治体包括連携協定に加え、経営改善の一層の推進

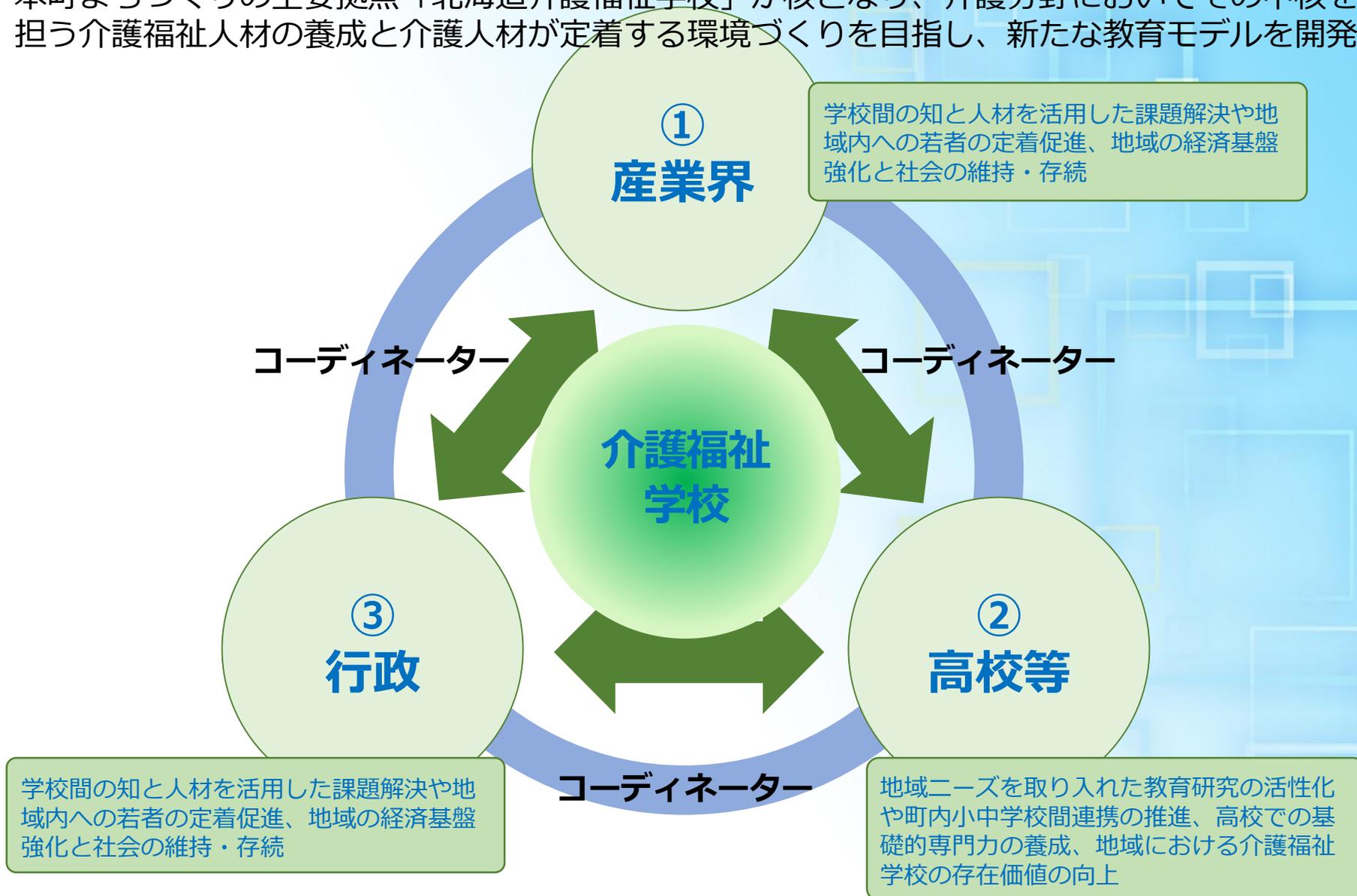
### 産業界

自らのニーズを反映した人材育成や共同研究による活性化、持続可能な雇用の維持・増加

# 連携組織「魅力化コンソーシアム」

## ○北海道介護福祉学校

本町まちづくりの主要拠点「北海道介護福祉学校」が核となり、介護分野においてその中核を担う介護福祉人材の養成と介護人材が定着する環境づくりを目指し、新たな教育モデルを開発



# 提案年度の取組

## 概要

北海道介護福祉学校と栗山高校による包括連携協定をベースに、町内介護事業所や町教育委員会、福祉課等を構成員に、『栗山町において、期待され、必要とされる「将来の地域福祉を担う中核的介護人材」像とその育成』に関する検討委員会を設置。取り組むべき教育内容（ビジョン）の検討を実施

検討にあたっては、本校学生及び小中高生及びその保護者や介護事業所、介護サービス利用者、関連産業事業者などに対するアンケート調査によるデータの収集

前述の検討委員会の議論により策定した教育内容（ビジョン）をもとに、高専接続カリキュラム開発委員会を設置

既存の教育課程編成委員を拡大する形で、高校校長や実務教員及び検討委員会構成員の一部や有識者を加えプログラムの開発・実証を実施

# 提案年度の取組

## フロー

### ① 参画主体・参画レベルの整理・検討

- 参画主体ごとの役割の明確化と検討委員会の運営体制の構築

### ② ビジョンの共有・議論・実行

- 現状と課題、状来予測の共有
- 介護福祉学校と栗山高校が町に与える影響、大学等進学に伴う人口動態の変化
- 今後の栗山町の地域社会が求める人材需要

### ③ 地域における高・専一貫教育のグランドデザインの策定

- 地域の課題解決のために実行すべき取組・事業の構築
- 取組・事業の実施に必要な役割・責任の明確化、大学等との連携、緊急・重要度の格付、予算確保

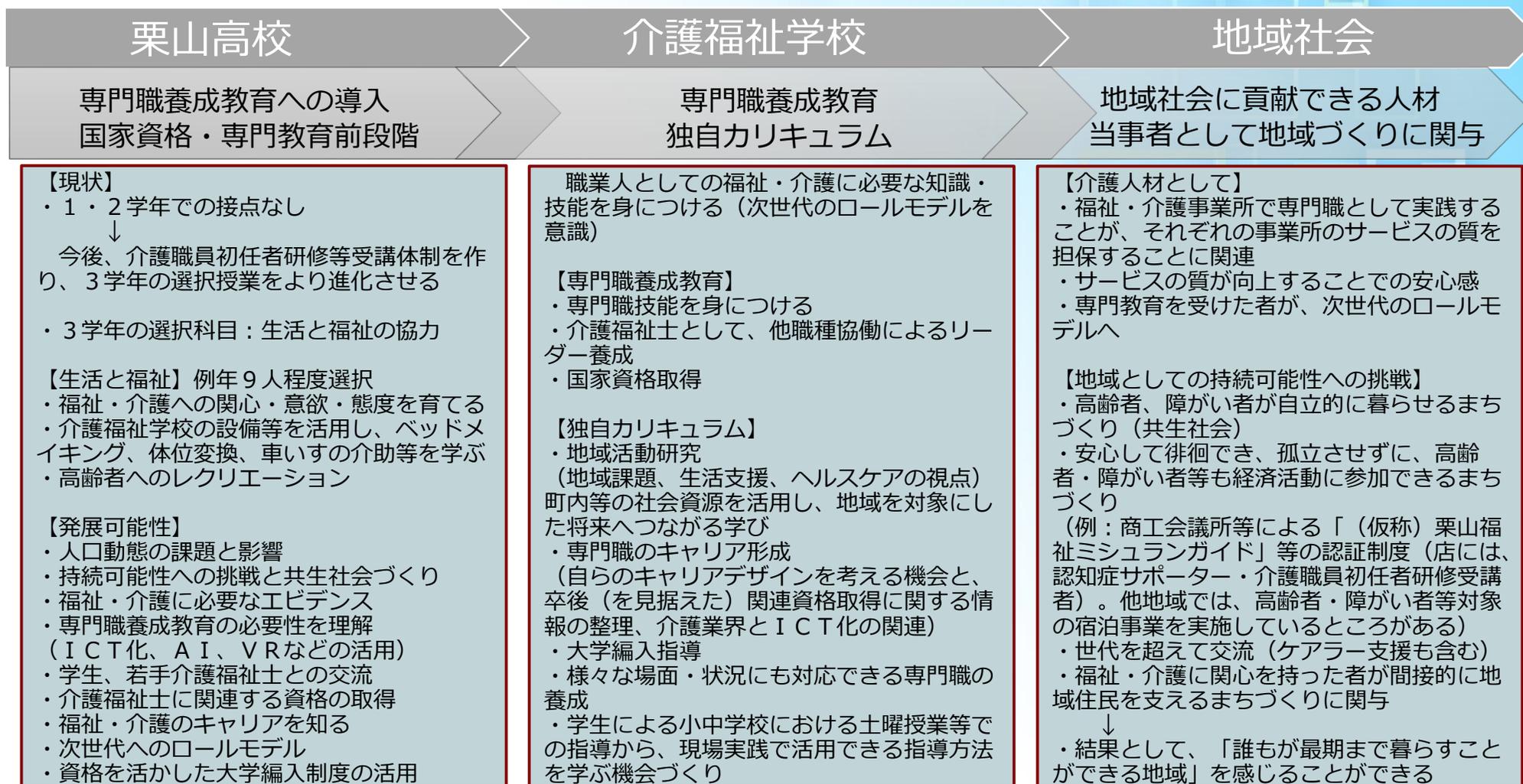
### ④ 地域課題解決に対応した教育内容の充実

- 介護福祉学校と栗山高校、地域社会（産業界）、行政機関等が協働で教育プログラムを開発
- 地域社会に求められる人材ニーズに基づいた教育モデルカリキュラム

# 北海道介護福祉学校と栗山高等学校との連携による福祉教育

## 高専連携イメージ

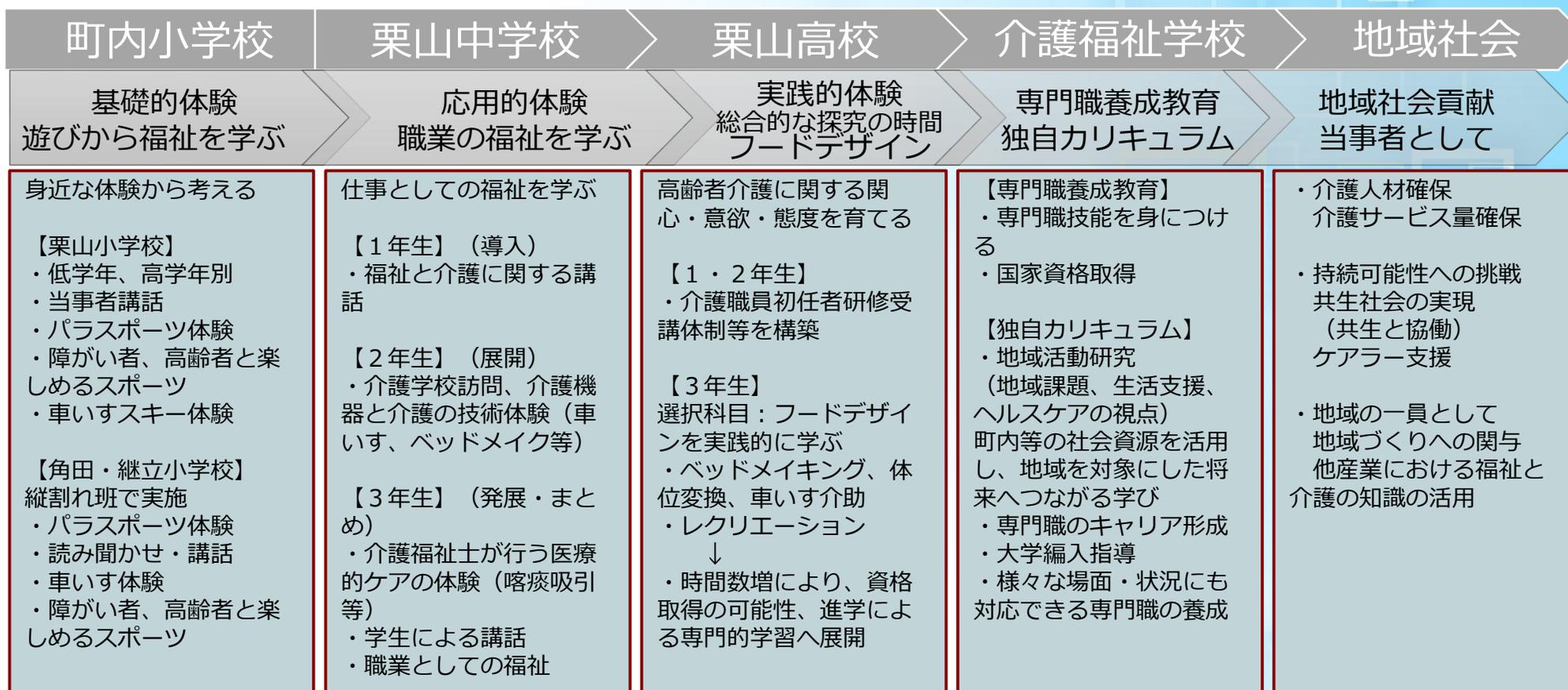
- 【現状と課題】
- ・栗山高校から、毎年入学生が存在（ここ数年は、1～3人程度）
  - ・栗山高校出身の学生の大半は卒業後、栗山町近郊または空知管内に就職し活躍
  - ・栗山町内の福祉・介護事業所も他地域と同様、人材確保には苦慮



# 町内の小中高と介護福祉学校の連携による一貫した福祉教育

## 町全体を見通した連携イメージ

- 【現状と課題】
- ・生産年齢人口が50%を切っている。介護人材が不足することで介護サービス提供量の問題が発生
  - ・一貫した教育・啓発活動により、地域特性を生かし誰もが共生・協働する地域づくりへの取組
  - ・「（啓発）発掘～育成～教育（研修）～定着」というプロセスと他分野でも福祉・介護視点の活用



# 高校段階でのカリキュラム編成案 (仮称) くりやま福祉学 1

- 【現状と課題】
- ・生産年齢人口が50%を切っている。介護人材が不足することで介護サービス提供量の問題が発生
  - ・一貫した教育・啓発活動により、地域特性を生かし誰もが共生・協働する地域づくりへの取組
  - ・「(啓発)発掘～育成～教育(研修)～定着」というプロセスと他分野でも福祉・介護視点の活用

	1学年(35時間) 全員	2学年(35時間) 全員	3学年(35時間) 全員	3学年(選択) フードデザイン
	内容	内容	内容	内容
探究の方法を学ぶ	探究学習支援教材の活用	探究学習支援教材の活用	探究学習支援教材の活用	
人口構造の変化	人口構造の変化と実態を学ぶ ・歴史的推移、将来予測	人口構造の変化が与えた影響を考える ・人口構造変化と社会資源の変化 例：町内の学校数、学級数の変化	人口減少社会を考える	共生社会とは何か
くりやまの福祉の歴史	座学：くりやまの福祉の歴史を学ぶ 座学：くりやまの福祉の今を知る	演習：くりやまの福祉サービスの現状の理解 ・まちの実態を調査 調査例：車いすを使って、移動時の支障等 車いすで使えるトイレの有無	演習：くりやまの福祉の今後を考える ・まちの調査のまとめと今後に向けて ・高齢者、障害者用のマップ作り (段差がない、車いす用トイレがある等)	
ヤングケアラー			・福祉ミシュランガイドの作成 ・身近な福祉問題を考える(ヤングケアラー)	

# 高校段階でのカリキュラム編成案 (仮称) くりやま福祉学 2

- 【現状と課題】
- ・生産年齢人口が50%を切っている。介護人材が不足することで介護サービス提供量の問題が発生
  - ・一貫した教育・啓発活動により、地域特性を生かし誰もが共生・協働する地域づくりへの取組
  - ・「(啓発)発掘～育成～教育(研修)～定着」というプロセスと他分野でも福祉・介護視点の活用

	1学年(35時間) 全員	2学年(35時間) 全員	3学年(35時間) 全員	3学年(選択) フードデザイン
	内容	内容	内容	内容
介護業界の いまを知る	座学：介護職や介護の知識 はなぜ必要か	座学・演習：介護の知識と 技術を学ぶ	座学・演習：今後の介護を 考える 座学・演習：進化する福祉 用具 ・福祉・介護のICT化を知る (ロボット体験等)	
介護の入門 的研修	基礎編(3時間15分)	入門講座(19時間10分)		実践的講座
	・介護に関する基礎知識	・基本的な介護の方法① (講義) 介護専門		・ベッドメイキングの 方法
	・介護の基本(講義・演 習)	・基本的な介護の方法② (講義) 老化理解		・身体に障害のある方 の移乗介助方法
		・基本的な介護の方法③ (講義) 生活支援		・高齢者・障害者の疑 似体験
		・基本的な介護の方法④ (講義) 生活支援		・高齢者のレクリエー ション方法
		・障害の理解(講義)		
		・認知症の理解(講義・演 習)		
		・介護における安全確保 (講義)		
		・その他		

# 高校段階でのカリキュラム編成案 (仮称) くりやま福祉学 3

- 【現状と課題】
- ・生産年齢人口が50%を切っている。介護人材が不足することで介護サービス提供量の問題が発生
  - ・一貫した教育・啓発活動により、地域特性を生かし誰もが共生・協働する地域づくりへの取組
  - ・「(啓発)発掘～育成～教育(研修)～定着」というプロセスと他分野でも福祉・介護視点の活用

	1学年(35時間) 全員	2学年(35時間) 全員	3学年(35時間) 全員	3学年(選択) フードデザイン
	内容	内容	内容	内容
高齢者からのメッセージ	座学・演習：コミュニケーション方法を学ぶ	演習：施設を訪問(くりのさと等)	演習・まとめ：高齢者からの話をまとめる	座学・演習：コミュニケーション方法を学ぶ
		・高齢者の話を聞く		
レクリエーション (異世代間交流)	座学：レクリエーション活動を学ぶ	演習：レクリエーションを体験する	実習：レクリエーションをやってみよう	座学：レクリエーション活動を学ぶ
		・ウォーキングサッカーの体験	・老人クラブと合同でウォーキングサッカー	
		演習：高齢者とできるレクリエーション	演習：高齢者とできるレクリエーション	
		・内容検討、企画作成	・企画内容の実践、評価、まとめ	
		・パラスポーツすごろく体験		
認知症の理解	認知症サポーターの取得・VR体験	徘徊模擬訓練を考える	演習：徘徊模擬訓練を実施	認知症サポーターの取得・VR体験
キャリア形成	映画で学ぶ福祉の仕事	講義：キャリアとは何か	若手介護職員と介護学生とのトークイベント	映画で学ぶ福祉の仕事
	・ケアニン、ピア等	・介護福祉士の役割を知る	・介護福祉学校キャリア形成支援講座参加	・ケアニン、ピア等
		・介護の仕事のキャリアアップを知る	・介護福祉学校地域活動研究報告会参加	

# 今後の取組

## ●令和4年12月21日に「くりやま塾」を開催

- ・介護福祉学校教職員と学生による授業担当
- ・栗山高校生徒と教職員が参加し、ビジョン共有につなげる

## ★本事業のキックオフイベントを開催

## ●介護人材確保に向けた自治体包括連携協定

本事業で取り組む高・専一貫教育プログラム開発で進める行政・高校と連動した教育活動を当該協定を締結する自治体へ広げる取組

## ★本事業の水平展開と栗山町における「福祉・介護」のブランドイメージの創出